

令和6年度 第2回磐田市スポーツ推進審議会 会議録

【日時】 令和7年3月10日（月） 午後3時～午後4時30分

【会場】 磐田市役所西庁舎304・305会議室

【出席者】 11名

【欠席者】 2名

【事務局】 6名

【サーベイリサーチセンター】 2名

1 開会

2 会長挨拶

3 協議事項

(1) 令和6年度 スポーツ推進事業の実績見込みについて

(2) 令和7年度 スポーツ推進事業計画について

(3) 磐田市市民スポーツ意識調査結果について

(4) 令和7年度スポーツ推進計画策定スケジュールについて

事務局から協議事項について説明。その後、意見交換。発言の概要は以下のとおり。

事務局

資料「令和6年度 スポーツ推進事業実績」

「令和7年度 スポーツ推進事業計画」に沿って説明

委員

スマートロックはうまくいっていますか。

事務局

市内の小・中学校の体育館とか、夜間の照明、グラウンド照明などで活用しています。トラブルも少なく、また若干トラブルが起きたときには委託させていただいているスポーツ協会さんに現場行ってもらったことあるのですが、ほぼ順調に利用されています。利用者の声も便利になったと聞きます。キャッシュレス決裁も始まり、窓口に行く必要がなくなったことが非常によい点だと思います。

委員長

それでは他に質問がないようですので、次の協議事項に移ります。また後で気がついたところでお聞きしたいことがあったら結構でございますので、御発言をお願いいたします。それでは
(3) 磐田市市民スポーツ意識調査結果について、事務局から御説明をしてください。

事務局

資料「磐田市市民意識調査結果概要」に沿って説明

委員長

業務委託先のサーベイリサーチさん、補足をお願いいたします。

業務委託会社

今回回収率がかなり高い数値となりました。40%を越えれば高いといわれる中で50%を越えています。スポーツというテーマに対し、磐田市民の関心の高さが伺えます。また、スポーツ実施率についても全国や近隣市町と比較しても高い数値となっております。

委員長

磐田市のスポーツの特徴という中でジュビロ磐田ホームゲーム小学生一斉観戦や静岡ブルーレヴズホストゲーム中学生一斉観戦が挙げられています。その点についていかがですか。

委員

昨年今年と静岡ブルーレヴズの試合を観戦させていただきました。今年については事前にラグビー講座も該当学年が受けることができました。ラグビーの精神を理解しながら試合を観戦することができたと感じます。生で試合を観戦することは職員にとっても、生徒にとっても幸せな時間だと思います。小学生中学生年代に種をまくような活動は大変貴重でよい体験になったと感じます。

委員

小学校でもジュビロ磐田の一斉観戦は歴史的にも根付いているため、子供たちにも浸透しています。それから、質問34にあるように校庭の芝生化に関連付けられると考えます。サッカーやラグビーをするにも芝生があるからこそ思い切り遊ぶ姿が見られます。また、小学校には選手が訪問してくださいますがプロスポーツ選手の話や、生の声を聞く機会があるということで本当に身近に感じる要因の一つであると感じます。

委員長

地域のスポーツに取り組む実態はいかがでしょうか。

委員

今は自治会の運動会をほとんど実施しておりません。地区をあげて身体を動かすという場は貴重な機会でしたが、残念ながら減ってきてしまっている実態があるので、改めてスポーツに力を入れていかなければならないと思います。

委員

私自身も非常にスポーツ実施率は高い地域であると感じています。さきほど調査会社さんから話がありましたが、川を挟んだ市町とは何が違うんだろうというのは個人的に知りたいなと思ったところです。

委託会社

市として施策をうっているというものが個人的には多いと感じています。スポーツ推進計画を作詞している自治体もそこまで多くはありません。本日実績等も拝見しましたが、磐田市はいろいろな事業を実施しているので、要因にはなっているかと思います。

委員

スポーツを実施していないという理由で仕事や家事が忙しいというのはやはり多いですね。スポーツ推進事業についてうまくいっていると感じつつ、いかに周知していくかというところが

大事になってくるかなと思います。地域の健康教室などを開催しても、必ず毎回同じ方々がいらっしやいます。さらにはすごい元気な方しかいないんですよ。視線を変えて図書室とかスポーツと一見関係ないようなところで周知すると、もっときっかけができる人が増えるのではないかと思いますので、御検討いただけたらと思います。

副委員長

永年スポーツ審議会に関わっていますが、全体的な傾向で大きく変化があるというのはあまり実感ありません。徐々にスポーツのまちという認識が広まっていて市民の方も少しずつそのような意識をもち始めていて結果に反映されていると感じます。

スポレク健康フェスティバルの参加者も特に大きくは変わっていない。ファミリーが中心です。子供が参加したいから親が参加して、親子で50m走ってみたら楽しいと感じる。スポーツに取り組むきっかけになればと思います。

委員

スポレク健康フェスティバルではラグビーの担当をさせていただきましたが、いろいろな種目があり子供から大人までスポーツに取り組むよい機会だと感じました。我々はふだん磐田市内の園や学校、一斉観戦も含めていろいろな活動をさせていただいておりますが、子供を対象としたものが多く、大人の方を対象としたラグビー体験やスポーツをしてもらう機会を今後つくっていかねばと考えています。

委員

身体障害者団体についても、今過渡期に来ておりまして人数が減り所属している人の年齢も上がってきています。今まで県の福祉課とボウリング大会をしていたけど年齢とともにボウリングをする人も少なくなっています。スポーツに関わる人がどんどん減っている状況です。

委員

私はスポーツに対する意識が高いと感じます。ジュビロがあつてレヴズがある。試合を観に行くことができる環境が整っているということが大きいかなと考えます。また、プロスポーツチームや各種企業、大学に行政が一体になってプラットフォームを進めていくことは大賛成です。一方、中学校の部活が地域に移行されていくことになっていきます。中身について分からない点が多いですが、私自身部活を経験してきました、部活動を通して人格形成に結び付いてきたことを感じています。そういった意味でも部活動がなくなることに対しては社会全体でフォローしていかなければならないと考えます。

委員

正確に言うと中学部活がなくなるというわけではないです。今はサッカーの試合をするにしても同じ中学校内から11人集めなければいけません、今後は11人そろわなくても近隣の中学校と一緒にサッカーチームを作って試合や連取を使用という取組です。大きな問題になっておりるのが移動についてです。今までは授業が終わったらそのままグラウンドや体育館に迎えたわけですが、今度は違う中学校まで行かなければいけない生徒が出てきます。また、地域移行することによって外部指導者をどうお願いするかという問題も出てきます。数年練りに練って構想してきましたが、外部指導者と移動の問題は常について回ります。外部指導者にお願いするにあたっては手当についても限りがあるという現状があります。さらには、初めてのことなのでみなさんの理解がついてきていません。教育委員会が学校に出向いて説明したりYouTubeの動

画説明を作成したりしていますが、浸透させていくという点も大きな問題になっています。

委員長

日本が明治以来築いてきた学校体育というの、中学校においては一大転換をするということで我々の頭が付いていかない状況があると考えます。学校の先生方も苦勞しておりますけど、教育委員会や保護者、指導者に子供もそれぞれの立場で何が最善かを考えているところです。磐田のスポカルについては全国から注目されており議会委員も数多く視察に来られています。いろいろ資料も出ておりますので、みなさんもぜひご覧いただき改めて認識してもらえたらと思います。

委員

今回の調査の結果を見ると障がいの有無等にかかわらず誰もが一緒に楽しめるスポーツ経験の有無の項目の数値が低く、85%以上の方がほとんどしたことがないという結果です。私たちスポーツ推進委員は学校にも行っているし地区のサロンや団体さんのところにも行って支援しています。それでもこれだけ認知が低いということはまだまだ活動をしていく必要があると感じます。障害があってもなくてもみんなで一緒にスポーツを楽しんでいくことができれば、もっと明るいスポーツのまちと言えるようになっていくのではないかと調査の結果を見て感じました。

委員長

それでは一通り調査結果について御意見をいただきました。改めてこのことについて、付け加えておきたい方がいらっしゃいましたらお願いします。

委員

磐田市が学生と協力して作成した「イワタde運動あそび」は30代等の子育て働き盛り世代に効果があると思っています。これを見ればどこでも運動できるし、親子で運動もできます。このパンフレットの存在が、スポーツ実施率の向上につながっていると私はと思っています。

事務局

資料「令和7年度スポーツ推進計画策定スケジュール」に沿って説明

委員

調査結果にはないですが、性別の人口割合や子供たちが少なくなっているとか、そういうことも必要になってくるのではないかと思うので、傾向についてどのように考えているでしょうか。また、指定管理者が実施しているスポーツ教室もたくさんあると思いますので、その実態について教えてください。

事務局

おっしゃる通り少年団の団体であったり指定管理者が行っているスポーツ教室についても磐田市全体のスポーツ推進には大きな影響を及ぼすと考えます。具体的にどのように組み込んでいくかは今お答えすることはできませんが、そういったことも意識しながら策定をしていきたいと思っています。

委員長

行政として今後スポーツを推進していくうえで改めてスポーツを網羅的に捉えることは大切ですね。

事務局

スポーツの定義については、競技スポーツももちろんですが通勤では公共交通機関ではなく徒歩で移動したりお子さんと散歩をしたり、そういうところもスポーツと捉えて今回調査しています。

委員長

幅広く体を動かすということを前提に意識調査が行われています。そのうえで磐田市のスポーツのまちというものをどのように構築していくのでしょうか。

事務局

今回の調査で印象に残ったことが2つあります。1つ目は今後取り組みたいスポーツでは断トツでウォーキングという結果が出ています。市民の需要に応じた施策に取り組んでいきたいと思えます。また、スポーツ観戦をしたことがない方が多くいる一方で多くの方が今後観戦したいと答えています。磐田市のスポーツ資源を生かして見るスポーツというところにも力を入れていきたいと思えます。

委員長

見るスポーツと言えば磐田市にはジュビロ、レヴズ、ボニータがあるわけです。それからバレーボールのプレス浜松とも連携しています。これらについていつ試合が行われていてどこでチケットを購入することができるのか、ネットでは調べることができますが、これらスポーツチームを統括したネット上のページがあればもっと身近に感じるのではないのでしょうか。自らお金を出してプロスポーツを見に行くことがきっかけとなり、スポーツに関心が高まるのではないのでしょうか。

最後にお一人ずつご意見いただけたらと思えます。

委員

やはり磐田市のスポーツ実施率はとても高いと感じています。競技スポーツに取り組んでいるようなイメージもありましたが、ウォーキングやラジオ体操といった身近なものに多くの方が取り組んでいることが分かりました。

委員

私は学生時代ずっとバレーボールをしていましたが、今ではアメリカで流行しているピックルボールに最近ハマっています。

委員

私は子供たちに教える範囲でラグビーに取り組んでいますけど、趣味でジョギングをしています。今回の調査は対象が18歳以上ということでしたが、子供たちに対していろいろなスポーツの魅力を伝えたり体験をさせたりして挙げることで、そういう子供たちが大人になった時にスポーツの魅力というものが心に残って、スポーツに取り組むようになるということを見越しながら子供たちと接していきたいと思えます。スポーツの魅力を他の団体のみなさんと協力し

ていきながら、伝えていけたらと改めて感じました。あわせて、大人の方を対象にスポーツに触れていただく機会をもっとつくっていきたくと思います。

委員

今大学で教鞭をとっているのですが、もともとずっとサッカーをしておりました。今回の調査結果をみても実施率が6割近くということで、環境面が非常に充実しているかと思います。スタジアムもサッカーグラウンドも公園もです。また、スポーツ推進委員として活動している学生もいます。そういうものを経験すると学生はすごく成長します。我々がいくら教室の中で行っている、実際に自分たちが体験する学びは大きなものですので、引き続きよろしく願いいたします。

委員

器械体操をやっておりましたが、途中から音楽に明け暮れるようになりました。体操、ゴルフ、登山をしています。観光協会の会長をしているとより感じるのですが、スポーツをする環境はあると感じます。でも、ウォーキングをする場所をもっと整備することはできると感じます。つつじ公園でもウォーキングできるようにするとか、大池など整備することができればもっともっと魅力のある街になるのではないかと思います。

委員

一番好きなのは野球です。観戦してみたいスポーツがサッカーの次に野球になっている。ラグビーは4番目になっているのが気になります。野球は3番目になっていて、産業大学の野球というのも市民の方が望んでいるのではないのでしょうか。子供たちにも野球は人気があります。

委員

私は中学の時は軟式テニスで高校の時は美術部に入っていました。今現在はSIVCというスポーツのボランティアクラブに所属しております。スポーツ観戦について話題になりましたけど、お金を出してまで見に行く人がそんなに多くはないのかなと感じています。

委員

これからの時代コラボレーションが大事ではないかというふうに思います。特に今回の施策の中の新たな時代に対応した施策等の実施に非常に興味深く感じています。私たちは部活動で運動やスポーツをしてきた世代です。そこから少年団がどういう状況になっているとか、部活動の地域展開でどう変わっていくとか今後を見据えると、部活動で培ってきたものが大きい人ほど将来心配かなと思っています。この施策にあった観光とコラボするとか、防災とコラボするとか、お年寄りと子供とコラボするとかが大事だと思っています。ジュビロ磐田さんや静岡ブルーレヴズさんという二大巨頭があるのですから、そういったところの活用もとうぜんかなと思っています。さらに高齢化が進む今、インターネットやSNSはもちろんですけど、やはり新聞やテレビの力は圧倒的だと思います。

自分はバスケットを専門に取り組んできましたので、今豊橋の事例が大変気になっておりまして、磐田市だったらどうするのかかなと思っています。

委員

今年度入学してくる1年生は2年生まで自分の名前で学校に出ますが、3年の夏はスポカル

の学校ではない名前ですることになります。子供たちにとって、これからは部活がある者だけではなくダンスや弦楽、プログラミングというようになり選択肢が広がります。やはり送迎や指導者の問題がクリアできるといいなと思います。スポーツ離れにならないよう、学校としても全面協力で進めたいと思います。私は今ウォーキングぐらいしかしていませんが、教員になって30年以上女子バレー部の顧問を務めてきました。ちょっと個人的には部活動がなくなる寂しさもあって、部活動を通して子供たちと触れ合ったりつながりを強めたりしてきた経緯がありますが、きちんとした考え方で進めていきたいと思っております。

副委員長

坐骨神経痛で5年くらい、ウォーキングぐらいしかできていません。私は大池まで車でウォーキングをしに行くのはどうかと思っております、自分の家から身近な場所で気楽に自分の時間でウォーキングできるという形が望ましいと思います。それぞれの地域に魅力あるウォーキングコースがあるといいなと思います。できれば私の住む地域に楽しめるようなウォーキングコースを作ってくれれば嬉しいです。

地域の方に中学校に来てもらって、ユニバーサルスポーツにみんなで取り組み広めていけるように考えています。

委員長

スポーツ協会の会長を務めてまいりますので、いろいろなスポーツの情報が入ってきます。新しいスポーツが次々に出てきています。時代は変わっていると感じます。先ほどラボの話も出ましたが、ゴミを拾いながらウォーキングするとかマラソンのようにするとかチャレンジしているところもあるみたいですし、様々な考え方ができるのではないかと思います。

どうもありがとうございました。